

笑顔あふれる学校

小満

運動場の北西にあるメイン花壇の花が色鮮やかに生長し始めました。各々の学年でも、ミニトマトを植えたりバケツ稲を育て始めたりしています。日本の暦の一つである二十四節気では、今の時期を小満（しょうまん）といい、草木が生長して天地に満ち始める頃としています。

教育現場では、コロナウイルス感染症対策をとりつつ、教育活動を増やしていく方向に進み始めました。本校としては体験的な活動を、感染状況を見ながら増やし、子どもたちの成長につなげていきたいと考えています。

子どもアートふれあい事業（5月11日）

この事業は、文化庁、日本芸術文化振興会、知立市教育委員会の支援のもと、学校とパティオ池鯉鮒が協力して行われたものです。名古屋に拠点を置く「マーガレット一家」の皆さんによる紙芝居ライブを、午前中に1、2年生と特別支援学級、午後には3、4年生が参観しました。

劇団員の方々の、笑いあり迫力ありの語りにも、子どもたちはくぎ付けになっていました。その様子から、本物に触れる大切さを改めて感じました。



1年 タブレットスタートプログラム（5月16日～23日）

1年生がタブレットを授業や家庭で使用する準備のためのスタートプログラムを16日から始めました。そのお手伝いとして、5、6年生の情報委員が1年生の教室へ出向いてくれました。

本校では、タブレット導入を機会に、昨年度から情報委員会を新設しました。タブレット使用のルールを検討したり、タイピングコンテストなどの企画を考えたりして情報推進活動の底上げをしています。

なお、1年生のタブレット持ち帰りはまだ行いません。学校での今後の使用状況を踏まえて進めていきます。



5,6年 コンサートデリバリー（5月20日）

今年度は、知立市を拠点に全国、世界にも活動を広げている「和太鼓ユニット光（こう）」さんをお招きしました。

子どもたちは、体中に響き渡る大太鼓の振動や、三味線の弦から弾き出される音に圧倒されて聞き入っていました。後半にはワークショップが開かれました。子どもたちは、光の方々に指導してもらいながら気持ちよさそうに太鼓をたたくことができました。



知立小学校開校 150 周年に向けて

前回の学校だよりに記載しましたが、昭和12年まで現在の新地公民館付近にあった学校は火事で焼失しました。そのため昭和13年8月、現在地である知立町中町花山に移転しました。この時、高等小学校部分は知立町長篠に分離し、これが後に知立中学校となります。

その後、昭和16年には知立町知立国民学校となり、さらに第2次世界大戦後の昭和22年、知立町立知立小学校となりました。この年が、現在の義務教育上での知立小学校のスタートとなります。



【現在地に移転した頃の校舎】



【知小とその付近（昭和23年）】